

当期の概況

当期における我国経済は依然として雇用情勢に厳しさが見られるものの、輸出と設備投資に支えられ、個人消費にも持ち直しが見られるなど、景気回復の兆しが見え始めました。また、海外においては、欧州で景気の低迷が続いたものの米国やアジアを中心に、総じて景気回復の動きが広まってまいりました。

当社の所属する日本機械鋸刃物工業会では総合で前年比 102.1%の生産実績で、当社の生産品目の中核を成す丸鋸では前年比 99.0%でした。総合では僅かではありますが 4 年振りの回復実績となりましたが、丸鋸部門では依然低迷が続いております。

中国、アメリカの子会社全体の現地通貨ベースでは、前年を上回る売上高と利益を確保致しました。単体でも増収増益でしたが、円高等の影響により、前期を下回る連結業績となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績の売上高は 7,423 百万円（前期比 1.3%減）、経常利益は 730 百万円（前期比 22.1 減）、当期純利益は 481 百万円（前期比 11.6%減）の減収減益となりました。